

変革の時 新たな価値創造

ドラッグストアの動向

日本チェーンドラッグストア協会（JACDS）は昨年11月、「ドラッグストア業界研究レポート2015年後期」をまとめ、公表した。その中では、高齢時代に対応した新しい医療制度、国民健康のあり方について抜本的に見直すことが不可欠であるという状況を背景に、「安倍内閣が“健康寿命延伸”を“産業で支える”政策転換に大きく舵を取った」と指摘。「この政策を受けて各省庁から多くの健康寿命延伸産業の育成策が次々と打ち出されている」とし、「わが国の薬局やドラッグストアにも大きな変革が迫られている」との考えを示している。

同レポートでは、大きな変革が迫られているドラッグストアをめぐる重要課題の一つとして、「セルフメディケーション推進プロジェクト」を挙げている。

このプロジェクトは、JACDS が立ち上げた 12 のプロジェクトであり、「従来の価値観にとらわれずに、時代の変化に伴う新たな価値を創造していくことが、新たなドラッグストアの成長に

不可欠であり、それは社会が必要とする価値であり、地域住民に喜ばれる商品や情報、様々なサービスの創造である」という考えのもと、継続的にドラッグストアの活性化研究を進めている。

この12プロジェクトの1つに「365日24時間営業研究プロジェクト」がある。同レポートでは、「超高齢社会の到来において、地域のニーズに対応するため、ドラッグストアは調剤業務も含めた24時間営業に挑戦する必要がある」と訴えている。

実現するための要件としては、①年中無休&24時間営業の中で、情報提供&相談応需が十分できる人員を確保した中で、利益の出る経営構造であること②また、それを実現する立地であること③調剤併設店舗で、要指導・一般用医薬品の提供ができるように薬剤師が常駐すること——を挙げる。

その上で、実現するための推進方法に関しては、「会員企業と共に365日24時間営業モデルを作り上げ、ドラッグストア企業に提示して実証実験を行う（地域の状況も加味する必要あり）」としている。

また、「機能性表示食品普及推進プロジェクト」も12プロジェクトの1つ。

昨年4月、特定保健用食品、栄養機能食品に続く第3のカテゴリーとして機能性表示食品がスタートしたが、同制度は事業者責任で、科学的根拠に基づく食品の機能性を表示できることが特徴。これまでの機能性を表示できる制度と異なり、民間主導型の機能性表示食品制度であり、同レポートでも、「業界が一丸となってルールを順守し、大きな市場を拡大させることが健康寿命延伸にも直結する」と期待を寄せている。

顔の見える薬剤師目指し 店舗外活動にも積極参画

店舗内の処方箋調剤業務という枠の中だけではなく、地域の集まりに出向いて、医薬品適正使用など薬剤師職能を生かした講演もこなす——。「顔の見える」薬剤師として、こうした日々の業務を実践している島村悦光さん。明治薬科大学を2015年3月に卒業し、4月に調剤併設型ドラッグストアを展開するスギ薬局に入社。現在、愛知県西尾市にある熊味店で勤務している。

スギ薬局熊味店 島村 悦光さん

埼玉県出身の島村さんだが、入社前の事前勤務地相談会で、同社創業の地にある同店での配属を希望し、4月から同店での勤務をスタートさせた。4ヶ月間の新入社員研修期間のうち、最初の約1カ月間は、調剤室には入らず、店舗内で来店者の接客や店舗スタッフの仕事内容などを肌で感じる期間を過ごし、その後、処方箋調剤業務をメインに従事する。

一方で、来店者のOTC医薬品の相談や、健康食品の説明などにも対応。同店では在宅医療も展開していることから、島村さんも患者宅への訪問し、在

宅薬剤管理業務も実践している。現在、透析患者の在宅医療を担当する中で、医薬品管理以外にも制限すべき食材のアドバイスや、服薬状況についても主治医に報告書の形でフィードバックするなどの連携も行う。

現在、スギ薬局では愛知県西部地区を中心に、今後の地域生活者の健康に寄与する調剤併設型ドラッグストアのあり方を追求する新しい形の旗艦店舗を展開。来店者向けイベントスペースも設置されており、薬剤師によるセミナーも実施している。「自由な発想で、従来と違う取り組みを発信していける



店舗です」と島村さん。

その延長線上にあるのが、地域の老人会の会合等の地域コミュニティい出向いた講演活動である。「基礎知識として、普段服用している薬の飲み方の再確認や医療介護食に関する解説を行っています。薬剤師としてのやりがいを感じています」と熱く語る。

常に誤りのない情報を提供する必要があり、「しっかりとした下調べが大切です」と話す。こうした講演以外にも日常業務の中では、自分の考えを相手に正確に伝えなければいけない場面が頻繁にあるという。「やはり学生の内に、自分の考えを言葉や文章でしっかりと相手に伝える技術を身に付けておくことも重要ですね」とアドバイスする。

高校時代から医療職に就きたいと考えていた島村さんだが、薬学部は4年制（生命創薬学科）に入学。大学院を経た後、2年間の実務実習等を終え、昨年実施の薬剤師国家試験に合格した。

就職活動については「当初は、病院勤務や製薬企業のMRで就職活動を進めていましたが、対ドクターの仕事よりも、患者に向かう仕事の方が、やりがいがあるのではないかと感じるようになりました。調剤併設型ドラッグストア企業の会社説明会などにも足を運ぶ中で、この業界の取り組みと自分がやりたいことが徐々に合致してきました」と、気持ちの変化があったことを明かす。

「ドラッグストアは、物販中心で本来の医療から遠ざかるようなイメージがあるかもしれませんが、決めつけないでそれぞれの企業に足を運んでみるのが大事だと思います。薬局は医療提供施設であり、薬剤師はもっとも身近な医療職として、疾病になる前に手を差し伸べることができる環境にあります」と語る島村さん。

今後も調剤併設型ドラッグストアだからこそのことを追求していきたいという。



薬のことなら 薬事日報ウェブサイト

『薬事日報』に掲載される記事を中心に、医薬業界のニュースサイトとして成長を続けています。一般からのアクセスは少なく、閲覧者の多くが医薬業界に属しております。業界の情報収集にご活用ください。

<http://www.yakuji.co.jp>

薬事日報

検索

「薬学生新聞」も
ウェブサイトに公開中!!

「スペシャリティーファーマ」を目指して。

当社は、日本薬局方が制定された翌年の1888年(明治21年)に、日本薬局方医薬品メーカーとして創業いたしました。以来、堅実営業を旨とし、医薬品の研究・開発・製造・販売を通じて、医療の発展に寄与し、健康と福祉に貢献できるよう努力しております。

会社概要

- 創 立 昭和11年11月5日(創業明治21年)
- 資 本 金 2億8500万円
- 事 業 所 本社・今津工場・中央研究所
- 社 員 数 500人
- 事業内容 日本薬局方医薬品その他各種医薬品等の製造販売

募集要項

詳しくはホームページをご覧ください。

- マルイシホームページ <http://www.maruishi-pharm.co.jp/>

- お問合せ電話番号 06-6964-3100 人事部 採用担当



丸石製薬株式会社

〒538-0042 大阪市鶴見区今津中2丁目4号2番